



ひらひよたより

No.8 2015.11.2

長野県で信州型自然保育認定制度がスタートし、森のようちえんひよたよりは、特化型の団体として認定されました。県内で特化型は7団体、普及型は65団体です。特化型は「質量ともに自然保育に重点を置いた取り組みである」とされ週に5時間以上の屋外での体験活動が行われること、認定型は「他の保育等のプログラムと合わせて自然保育にも積極的に取り組んでいる」とされ週に5時間以上の屋外での体験活動が行われること、といふれ認定基準で定められています。信州型自然保育の基本理念は、その実施要綱第3条に「信州型自然保育は、保育園に自然保育を積極的に取り入れることにより、子どもたちの自然の感性や感謝の気持ちを醸成することも、子どもが本来持っている自立性、成長しようとする力を育むことを旨として行うものとする。」と明記されています。ところが肝心の「信州型自然保育とは何か?」という点については、どこにも明記されていません。この制度の検討委員会の委員として制度構築に関わったましたが、検討段階で委員間の意見の相違が目立ったのが、「そもそも自然保育というの何なのかな?」という点であり、この点の共通認識を形成することの一一番時間がかかりました。但し、結果として「自然保育とはこういうものだ」「信州型はこういう特徴がある」ということについては、明確にこれまで検討は終りました。あくまで一定のものに固定するのではなく、多様な取り方を認めつつ「これまでの実践、これまでの実践の中から信州型自然保育の姿をつく、いましょう」という具合です。11月1日には「日本自然保育学会」が発足しました。県内の森のようちえん関係者も発起人として多く名を連ねています。自然保育の意義と明らかにするために「実践」「技術」の両面からアプローチするようです。

なんだかいろいろ盛りあがきますが、だからといってそれに対するワクワク感にはどちらかの人が正直なところです。でもうかとすると、ちょっと冷やかす感じと言つ方がいいります。天邪鬼なのですよ。そんなふうに感じて下時に、ひよたより園の子もかけたが、出来事を思ひ出せよこかありました。10月後半のえりんこ体操の日のこと。2学期途中から入園した真央ちゃん(ひよ)、また数回目のえりんこ体操です。で、ひよの森であそぶ時ひよ異なるみんなの雰囲気や勢い。月1回ペースですが、じんぐり時代から積み重ねてきた身体の動き。そういうみんなの姿に真央ちゃんが圧倒され、怖気づいてしまうのも理解できます。みんなと一緒に体操はしませんが、患児さんが2人ほどの動きにあわせて鳴うるタンバリンの音にあわせて手を叩いたり、「ハイ!」と声を出して応援して参加しています。体操をはじめ、真央ちゃんに対するやうな、いけない人だよ」「やうまいひよ」「と言つたりする人はいません。鉄棒が始まる時、「やあみた?」と声をかけて、「できたらからやうまい」と真央ちゃん。その言葉と同時に「僕もできたらか、下へだよ」、佐々木くん「僕もできたらか、たけじ。でもうつにならんよ」と真央ちゃんに声をかけていました。その2人の言葉にびっくりしたような表情の真央ちゃん。少しこえてから、肩を揺れ振る、と答えていました。そのやうじて見守りながら、前次郎くんがえりんこ体操で初めて鉄棒に挑戦した日のことを思い返していました。足が地面から離れることに恐さがあつたのでしょうか、前次郎くんも「やうまい、見てよ」と鉄棒に取組まないことが続いていました。それがある時、「やあみた!」と肩をかた言い出し、鉄棒に向かってました。前次郎くんがうだつたように、真央ちゃんにもううつた「時」が、そこにはありました。「できたら」「苦手」「失敗」に対する向き合い、それに向かい合っている仲間への関わり。ひよでの森でここもうちが積み重ね、学んでいます大事なことです。

盛りあがりとの適切な距離を保つつ、いま目の前のことでもうひとつ肉切り大切にし、改めて自分自身の「保育」を見つめなさいこを感じています。 植え木

おおきいくわい

この10月は、清里キャンプに平尾山登山、小諸城懐古園へ電車でお出かけ…など、おみきいくには遠出する機会がたくさんあります。清里キャンプは少しの鉄道ヒル海線を乗り越いで、行き帰りも長い時間電車に揺られました。懐古園前日は、くり・アソブくりやまに電車で動物園に行きましたと話すと「やつー!」と叫んで飛び立つて大喜び。この時出かける前には、電車の中ではりやのお客さまの迷惑にならないように気をつけようね…と言ふといいますか、おみきいく子どもたちは迷路をあひでるどころか、行く先々で並んで方向を聞き、ここやかに歩き直していく姿がたくさんあります。

たとえば清里キャンプの電車の中、隣の席のおばさまお二人に「小学生?」と声をかけられた理由をちゃんと。「ううん、軽井沢の森のようちえん ひよひよ」というの。おみきいくさんとくりやま、「え?」幼稚園なのにこなす下かいりゅうしてきてる?えらいわねー」と感心されます。森のようちえんの全部お外で遊びます。雨の日も雪の日もカッパを着てずっとお外で遊びます。」ときちんとしっかり説明します。別の席で明日香ちゃんとすみちゃんは、おひざにまゆさんの歌の楽譜をのせてページめくつけてが、隣の席のおばあちゃんに話しかけられ、そのうち歌いそろいに歌を歌ってお聞かせしてもらいました。

かわいいお姫様の懐古園、紅葉まつりの最中にあってたくさんのお客さまと行き交います。「ここにちは?」「あら、ぼく何歳?」「4才!」「おまえがまだえらいね。」何度もこなすおじさんとお兄さん、「それからいいねー」「重くない?」「おあ、てこでしょ」。人力車に観光客を乗せお兄さんに、「それからいいねー」「重くない?」と言いかけています。お姫様が、後でこのお兄さんは、草笛で「故郷」の美しいメロディを聞かせていたことができました。工成工跡跡の大さな石垣を見て母子、「こんな大さな石を昔の人はどうやって運んだのかな?」と大人が言ひますと、ウイアムくん「きっと石の種を持たら大きくなれるんじゃない?」隣を歩いている観光客の方は「まあほんと素敵ですね!いい見つけたね!」とほめてくれます。

動物園の大さなリクガメのところでは「このカメ、今前お祭りの時に相生町の真ん中の通りを歩いていたの」とおじさんとお姫様に、空太くん「どうやつてそこへ行った?」「動物園の人が連れ歩いていたのかね?」「ほんたう、ぼくが自分で歩いてきたのがいいじゃん!」…美しい会話ながらおじさんはしばらく続いていました。

どの場面でも子どもたちは出会って人に「ここやかに」おまけたりして、素直に感想をおしゃれしたり、子どもたまにとても丁寧に向き合っている姿があります。周りの人々に大きな信頼感をもつて接する姿は、子どもといつも一人の人間として、何か大切な人と人との関係の本質を見つめます。そして温かい気分になります。お家庭でも車での移動が少ない地域、電車に乗って温かいところへ向かう。子どもと角出れあり、社会性を育む機会というのに意識している子もたくさんいましたが、もしれません。気分のいい季節、ここには電車でお出かけはいいかもしれません。 美和子。

お知らせ

やまもり祭の準備も最終週…きっとたくさんのご苦労やお疲れがあることでしょう。ありがとうございます。個人面談・収穫感謝…と統いてしまいます。どうぞよろしくお願ひいたします。

- 冬到来も間近となりました。外で長い時間過ごすのは想像以上に冷えます。トレーに行く回数も増えてきました。着ているものは暖かいパンツや重ね着に。そしてお着替えバッグには寒さ装備に、少しづつ準備をお願いいたします。
- おにぎり・お弁当を薪ストーブで温め始めます。1/2(月)～2/1(水)準備をお願いいたします。ドライ缶はいつでもどこがでござました。ありがとうございました。
- このあたりが出来時では、子ども達と一緒に脱穀作業が終わっていると思います。よいよ新米を貯蔵時となります。おうちの方達と一緒に収穫感謝の一日を過ごしたいと思います。1/7(火)又は1/8(水)を予定しています。割いことは後日アリントを配布いたします。
- 信州型自然保育(特化型)認定園となりました。ついでに2日間取材に来られた信州型自然保育紹介動画も近く完成の運びとなると思われます。長野県とのつながりができた2015年度…新しい一步が始まります。又1/1(日)日本自然保育学会が立ちあがります。
- 伊那市にあるNPO法人「山の遊び舎 はらぺこ」(同じく特化型認定園)の保護者の方達が今年も研修の一貫として1/6(金)に遊び見学に来られます。
- 11月のえりんこたいそくは、18日(水)を予定していますが、収穫感謝の日程によっては変更させていただきます。

おあきいくせ 11月の予定

5日(木) ライジング

9日(月)・30日(月) アート

16日(月) お出かけ予定

19日(木) 和料理

後半からは、少しづつクリスマス準備に取りかかります。

個人面談の お知らせ

今年度も半年が経ち、子ども達の早い成長を感じます。確認や理解を深めるために個人面談を行います。お時間に不都合がある場合は、どちらかと交替していただき、その旨をスタッフまでお知らせ下さい。また降園時から託児をいたしましたので、14時のお迎えにいらっしゃらなくて大丈夫です。面談時間になりましたら直接面談場所へいらして下さい。

面談場所

バブル「希望」ハウス (ピピハウスの隣)

散歩路

	1/9(月)	1/10(火)	1/11(水)	1/12(木)	1/13(金)
14:15					
14:45					
14:45					
15:15					
15:15					
15:45					
16:15					

田畠でモリモリ

おはなし遠足。お疲れでおじてー。娘子がうち米をメリ取ってから後、おおさくめびも味のオシメリもしてきません。おあくびくりさんでは金糸を往せても危なげなく、どんどうメリ取しが進むのでびっくりします。毎年の仕事の積み重ねのやうぱりすい！
松(まつ)くりさんは大人と金糸でメリ取るのんかえ、ほせかけをするのに大きなわら束を運ぶ仕事を丁寧に手伝ってくれます。今はゆくまみ陽日暮の陽射しをあびて、じんわりお米がみいけてる感じです。ほせかけ天日干すと「干す」とアシ酸と糖分の含量が高くなり、水稻を逆さまに吊すことでわらの油分や栄養分、甘味が下部の米粒へ降りて、栄養と旨味が増す」とあります。もうすぐ足踏み脱穀という昔の機械で米粒をわらから外し、粉々といつて米からも外してさらに精米したり、やっと新米を食べることができます。田んぼの質の火田さんは「あれ？ これ人参の葉っぽですか？」と気付いた途人さんが葉っぽを引ひいてみると、丸々と太い人参が！ 夏前に間引いて後、草に縛られ忘れられていた人参が「あ、あちこち！」、「こちらにもあります」と次々見つかります。次の日のピッランチでみんなで切ってお味噌汁に入れ込みいくのです。

：美和子。

ひのひの森の木の芽たち～10月 ムクサキシキデ 紫式部～

森の木々が鮮やかに色づき、それに負けまいと？ 木の実も赤、オレンジ、ムクサキ…と色とりどりのひのひの木。先日松(まつ)くりさんと作って木の実の標本箱に宝石箱のように素敵でした。様々な色の森の木々。よくみていくと、赤や黄色に色づいた葉の木には、実がついていたよ。もしくは地味な色の実で、緑色に近い葉の木には鮮やかで実が目立ちます。

色あいとしては「緑と赤」「緑とオレンジ」「緑と紫」などです。これがもし「赤と赤」と「黄色と赤」であたらどうでしょうか？ 緑色が背景にあることでよりその実が美しく目立って見えることを植物(?)が知っているのでしょうか？ ちなみに色のついた木の実は、鳥に食べもらい種を散布してもらうため、鳥の目によく見えるよう色がついているのです。

最も鳥の目に上く見えるのは「赤」系の色だそうです。ですから、自然界には赤系の実がとても多いのですね！

そして、今月ご紹介するムクサキシキデも鳥たちがよく食べている木の実の一つです。

人が食べてもほんのり甘いんですよ。ひのひの森では子どもたちが

その美しい色と姿からアロ前を覚えて、おまかとのケーキに。

そしてお母さんのおみやげにヒョウズリーニ！ 常緑の callicarpa

といふのはギリシャ語で「美しい果実」というようです。「紫式部」

といふ風流な名前にはシエラ時代に植木屋さんがつけたそう…。

素敵なお名前ですね。その素敵なお名前のおとにアントニ

実と、緑の葉のかげにアイボリーのかわいい来年の葉が。

ほんわりと隠れています。2枚向かいあって抱きあっているようだ

姿はこれから冬を支えあってのりきらうとしている上にも見えます。：葉と東

